



くらしき地域 普及指導センターだより2018



人づくり
産地づくり
ブランド
づくり



©岡山県「ももっち・うらっち」



岡山県備中県民局農林水産事業部
備南広域農業普及指導センター 農畜産物生産課

目次

●特集

もも産地が連携して活動しました 1~2

●力入れてます！

(1) 「ICT」を使って、楽々・安定稲づくり 3

(2) 組織化の強みを活かして、さらなる経営安定を目指す 3

(3) 水稻の密播育苗にチャレンジ!! 4

(4) 美味しい「シャインマスカット」を生産するために! 4

(5) GI「連島ごぼう」がんばっています! 5

(6) 夏秋なす栽培で省力化を実施しています 5

(7) 天敵を上手に活用! 減農薬のいちご栽培 6

(8) スイートピー産地の明日を担う新規就農者の支援 6

(9) 6次産業化で農業経営に新たな取り組みを! 7

(10) 法人化など経営改善を考えている方へ 7

(11) 目指せ農業! 倉敷地域で新規参入者急増中 8

(12) 白い牛舎でモウ暑を乗り切る 8

●西日本豪雨について

(1) 被災された皆様にお見舞い申し上げます 9

(2) 豪雨災害からの復活! ~水田営農再開に向けて~ 9

(3) 再建に向けての相談受けています 10

(4) 野菜は早期に生産を再開! ぶどうは来作に向けて回復中!! 10

●受賞おめでとうございます

(1) 矢野賞 11

(2) 岡山県農林漁業功労者表彰 11

●はじめまして! 新農業士です 12

●新しく農業始めます! 13

〈表紙写真の説明〉

(左上) モモの合同研修会(秋季せん定)

(右上) ごぼう食育活動

(中央) スイートピー

(左下) 水稻有機栽培研修会

(右下) 桃ジャムの加工実習

〈裏紙写真の説明〉

(左上) 経営の専門家と話す相談者

(右上) 加温ぶどう

(左下) 真備被災ほ場の土壌採取

(右下) いちごの天敵調査

特集 もも産地が連携して活動しました

J A岡山西玉島北園芸協会もも部会、浅原園芸組合 吉備路もも出荷組合、総社もも生産組合(倉敷市、総社市)

倉敷地域のももは、県全体の約3分の1の栽培面積を占め、高品質安定生産によるブランド化を進めています。もも生産組織は、J A岡山西玉島北園芸協会もも部会、浅原園芸組合、吉備路もも出荷組合、総社もも生産組合の4組織があり、平成29年から産地間の連携を図り、効率的・効果的に産地力の向上に取り組んできました。

1 もも産地合同の販売促進会

6月12日、岡山中央市場において極早生品種「はなよめ」の初出荷に合わせ、産地合同の販売促進会を開催し、今年のももシーズンのスタートを産地が連携してPRしました。市場、仲卸からは「ももシーズンのスタートが印象付けられて良かった」「来年もやって欲しい」と好評でした。



もも4産地合同で岡山市場へ初出荷をPRしました
(6月)

2 産地を交えた初心者研修会

各産地の新規就農者や農業実務研修生ら30名が集まり、ももの栽培技術や経営能力を高めるとともに、産地間交流を図りました。

4月26日は、異なる生産組織の研修生同士で班を組み、日頃抱いていた疑問点などを話し合い、産地間交流の場となりました。

6月19日は、「清水白桃」の修正摘果後、着果数と摘果数を数え、着果割合を体得しました。



4産地の栽培初心者が集まり、グループミーティング
(4月)



摘果、袋掛け後に着果数、摘果数を数え、適正な着果割合を体得しました(6月)



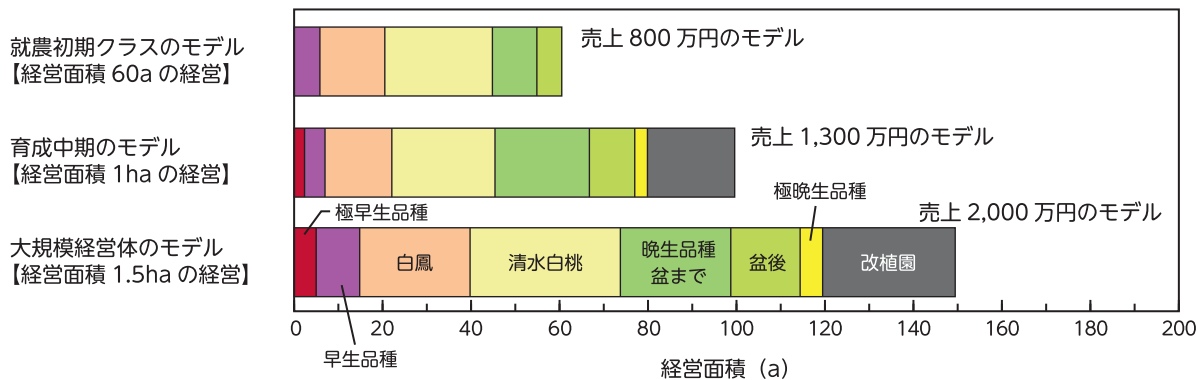
特集 もも産地が連携して活動しました

3 大規模経営体の育成

産地を担う大規模経営体を育成するために、育成モデルを作成し、品種構成の見直しや造成したメガ団地への植え付け支援、園地流動化を図りました。

(1)大規模経営体育成モデルの作成

新規就農者等が産地の担い手として大規模経営を実現するため、就農5年後の目標となる初期モデルや経営面積1ha規模の中期モデル、さらに、経営面積1.5haとなる大規模モデルを作成、提示しました。

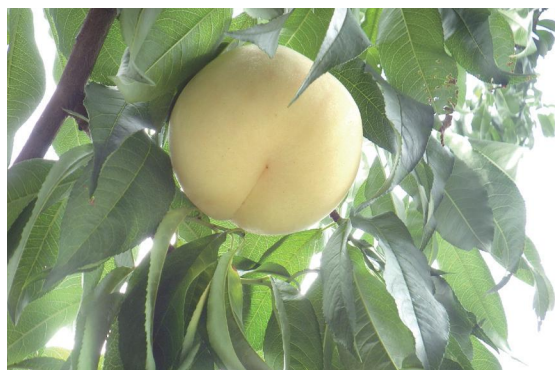


倉敷地域におけるもも大規模経営体の育成モデル (H29アンケート結果より作成)

(2)品種構成の見直し

各産地とも、規模拡大に伴い、出荷時期の延長と経営安定のため、盆後に成熟する品種の導入を推進しています。各産地が共通して進めています。

「^{めぐみはく}恵白」をはじめ、岡山県の新品種「^{はくおう}白皇」、^{はくろ}「白露」、また、「瀬戸内白桃」や「冬桃がたり」など多様な品種の導入を検討しています。



各産地がともに推進する極晩生品種「恵白」

(3)メガ団地や園地流動化

大規模化を実現するために総社市久代地区で造成中のメガ団地での土壌診断や植え付けを支援しています。また、規模拡大に際して廃園の流動化、遊休地や他品目ほ場からの園地集積も各産地で取り組まれており、同様に支援を行っています。



造成中のメガ団地(10月)